

入 選

人にとって大切な「水」

水戸市立第四中学校

二年 金 原 愛 実

小学校六年生の時、理科の授業で「水の循環」について勉強した。「水の循環」とは、海から蒸発した水が雲となり、雨が降り、雨水が川や地下を流れ、再び海に戻ることをいう。

毎日使う水の主源について調べてみた。川から取り入れた水を、飲み水として使えるように浄水場できれいになっている。きれいになった水は、水道水となり、配水場でためられ、そこから各家庭に届けられるしくみになっていることが分かった。ここで疑問がわいた。なぜ水は蛇口をひねると出てくるのか。それは、浄水場からポンプで圧力をかけることで、水が送られてくることだった。ちなみに、ポンプは電気で動かしているため、地震などで停電した時は

水も出てこなくなる。水に電気が関係しているとは意外だった。地下に水道管がはりめぐらされていることすら、気づかなかった。当たり前前に水を使えるようになるまで、どれだけの苦労があったかと思うと、もっと大切に水を利用しなければいけない。

次に、「水不足問題」に目を向けてみた。日本では、蛇口をひねれば出てくる水だが、発展途上国や乾燥地帯では水不足の状態にある。上下水道の設備が整っていないことから、人々は水を手に入れるために、遠く離れた水源地まで、水をくみに行かなければならない。日本のように、安価で安心安全な水が簡単に手に入れられるわけではないため、結局不衛生な水を摂取することになってしまう。このことは、小さな子供達が病気になる、命を落とす可能性が高まることにつながる。しかし、水を飲まなければ、私達は生きていられない。こういった恵まれない国に生きる子供達を救うために、私達ができることは寄付をすることや、関心をもつことだと思う。普段の生活でできることは、調理、洗濯、トイレ、お風呂の水をむだにしない、再利用することだ。

自宅から近いところに逆川緑地があり、そこに「笠原水源」がある。ここから出ている水はわき水で、現在も水戸市の水道水源地として使われており、川の水を使った水道水とは違って軟水の水道水なので、おいしい水なので私も飲んでみたいと思う。このわき水に目をつけた人がいる。徳川光圀である。今から約千四百年前に、水戸の城下町は水の便が悪く、特に下市地区は飲み水に困っていたため、光圀は笠原水源から全長約十キロメートルの笠原水道を作ったそうだ。この水道は、昭和初期まで使われていて、当時の人達の知恵と努力には頭が下がる思いである。

人間の体の七十パーセントは、水分でできている。水分を失ってしまえば、人は死んでしまう。絶対になくてはならないということが、改めて分かった。これからは、日々の生活において水の利用方法を考え直し、地球温暖化の原因となる、二酸化炭素の排出をおさえるなど、全ての人が少しずつでもいいので意識することが大切だと思う。